

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/01 ～2020/01/31)

1. 勉学の状況

今月で1セメスターが終わりました。二つの文法の授業のテストは12月の初めにあり、問題は4問しかなかったのですが設けられていた二時間を丸々使って解答用紙二枚分びっしりと書きました。教授はとても優しくテストで高得点を狙うために勉強すべきポイントを教えてくださっていたのでテスト対策がしやすかったです。また、テスト期間では、スペイン人の友達が気にかけてくれて、去年同じ授業を受講していた友達がわからないところを教えてくれたり、わかりやすくまとめた自分のノートをPDF化してくれていつでも見返せるようにメールで送ってくれたりしてとてもありがたかったです。同じ授業を取っている友達とも図書館やカフェで勉強しました。友達の協力もあり、無事両方単位を取ることができました。翻訳の授業はテストではなく、一月末に提出する論文での評価でした。授業自体は10月いっぱいまで終わっていたため、11月からテーマを絞りそれについて関連する文献を読み始めました。私は日本の漫画の用例を用いて、giro cultural (翻訳する際に言葉だけではなく文化も尊重した翻訳にしようという考え方)についての論文を書きました。論文を書くためにかなりの数の論文を読みました。最初の頃はわからないスペイン語ばかりでかなり時間がかかっていましたが読んでいくうちに同じ単語に何回も出会いさらに文の構造にも慣れてきたことから少しずつコツを掴めるようになりました。しかし、英語で書かれた論文も読まなければいけなかったのでここ数年スペイン語ばかりを勉強していた私には久しぶりの英語の登場に骨が折れる作業でした。しかし、同じ授業を受けている友達が偶然似ているテーマで書いていて、共通している内容が書かれている論文を見つけては私に教えてくれて私が興味を示すとその論文をコピーして私にくれたり、また、私が書いた論文の添削も快く引き受けてくれたり、論文の書き方がわからない時に相談すると優しく教えてくれたりして本当に感謝してもしきれません。全部で15ページの論文を完成させることができ、達成感でいっぱいでした。また単位も無事取れていて安心しました。

同様に千葉大学に提出しなければならなかった三年次論文も一月の終わりが締め切りで一月は二つの論文に追われていて大変でした。しかし、自分の興味があることだったので調べていて楽しく、また、先ほど述べた翻訳の授業と似ている内容であったため、比較的書きやすかったです。自分が納得する論文を書き上げることができてよかったです。

大学の授業だけでなく語学学校の授業も今月で最後でした。語学学校では様々な国籍の人が通っているため、その国の文化や政治について知ることができてとても楽しかったです。2セメスターは大学の授業の時間と同じ時間なので通うことを断念しました。その分大学の授業に集中していきたいです。2月から2セメスターが始まるので実りある五ヶ月間にしていきたいと思えます。

2. 生活の状況

留学生活も五ヶ月が経ち月日の流れの速さに日々驚いています。サラマンカは10月くらいから寒くなり始め、また私の家は特に寒いので湯たんぽなしでは生活できないほどなので湯たんぽのありがたさを痛感しています。そんな中、私の家のガスが壊れてしまい、何日間もお湯が出ない生活でした。すぐさまガス会社に電話したのですが、その日が金曜の夜で、土曜と日曜はお休みだったらしく月曜日に折り返しの電がかかってきて数日後修理の人の方がきてくれました。日本ではまず起こり得ないことであり、業者の人がすぐ駆けつけてくれるのでスペインの対応の仕方に理解し難く、また、初めて経験したことだったのでストレスが溜まっていましたが、同居人と話したりご飯を一緒に食べたりすることで気を紛れさせることができました。この四ヶ月間で同居人との中がとても深まったように思います。私がつまりながらも話すことにしっかりと聞いてくれ、うまく説明できなくて、話すのをやめようとした時にはゆっくり話してみても言ってくれ理解してくれようとする姿勢がとても嬉しかったです。恋愛の話や宗教の話、またゲームなどしていつも3人で過ごしています。お正月はみんな自分の国に帰っていたため正月明けに3人で会った時はみんなんでハグをしました。出会った当初はこんなにも仲良くなれると思っていなかったのも、とても嬉しいです。同居人のおかげで家の中でも楽しく過ごせています。

学校のお友達とも家でパーティーをしたりカフェに誘ってくれたり、語学学校の友達とも定期的に同じカフェで集まって話したりしています。定期的に誘ってくれる友達には日々感謝です。私が驚いたのは、こちらの友人は年末に帰省するとき一人の友達が帰省するたびにお別れ会と言ってみんなでバルに集まります。会えなくなる期間がたった2週間なのに集まっていて最終的にはほぼ毎日のようにお別れ会をしていました。スペイン人が情熱的だと言われる理由がなんとなく理解できました。私はスペイン人のこのような人との関わり方がとても好きだと思いました。

休暇を利用して4カ国に行ってきました。久しぶりに英語を話すと全く単語が出てこなくて、出てくるのはスペイン語でした。いいことではあるのですが、英語ができなくなって少しショックでした。しかし、どの国でも、スペイン人だったりスペイン語を話せる人がいたりして、スペイン語を使ってコミュニケーションをとることができました。スペイン語ができなければ出会えなかった人たちにスペイン語というツールを使って出会えたので本当にスペイン語をやってよかったなと感じました。この4ヶ月間で少なくとも9月初よりは自分のスペイン語が成長していて友達とも会話が徐々に増えてきて喜びが感じられましたが、まだまだ自分の満足のいくレベルではないので残された日々でできることを頑張りたいです。

二月で私と一緒に千葉大学から来ていたもう一人の留学生が帰ってしまいます。困った時はお互いに助け合っていたので帰るのは本当に寂しいですが日本でだけでなくスペインでも同じ場所で一緒に勉強ができてよかったです、これからは一人で寂しくなりますが、5ヶ月間頑張ります。



同居人と



語学学校のお友達と



サラマンカ